

令和6年度 自己評価結果と学校運営協議会委員評価結果

令和7年3月
湯梨浜町立湯梨浜中学校

1. 学校の教育目標

- 知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさを身につけた生徒の育成
- 人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成
- ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- (1) 自らの進路を切り拓く確かな学力の育成（主体的・対話的で深い学びを目指して）
 - ①校内授業研究等により協同学習の授業づくりに努め、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。
 - ②学習規律の定着と家庭学習の充実を図るとともに、基礎学力の確実な定着に努める。
 - ③タブレット1人1台の活用を中心としたICT機器の効果的な利用を進める。
- (2) 豊かな人間性の育成
 - ①授業および教育活動全体で、道徳教育、人権教育の充実を図り、よりよい人間関係づくりに努める。
 - ②生徒会活動、学校行事、学級活動を充実させ、集団とともに個の成長も図る。
 - ③掃除の充実、時間の厳守、挨拶の徹底等の当たり前のレベルの向上を図る。
- (3) 健やかな体の育成
 - ①保健体育の授業、部活動をはじめとする様々な教育活動を通して基礎体力を高めるとともに、食育の推進を図る。
 - ②生活リズムの確立と自立的な健康づくりに努める。
- (4) 教育上の諸課題の解決
 - ①特別支援教育の充実を図り、支援を要する生徒個々の成長を促す指導に努める。
 - ②長期欠席の未然防止に努め、不登校生徒の減少を図る。
 - ③郷土芸能、ふるさと探訪、職場体験等、地域の教育的資源をいかした活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成に努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由(校内評価委員会意見)
(1) 自らの進路を切り拓く確かな学力の育成（主体的・対話的で深い学びを目指して）	(校内評価委員会) B	協同学習の理念を取り入れ、ICT機器を活用しながら日々の授業を実践しており、多くの生徒が一生懸命に学習に参加している。しかし、主体的に授業に参加している生徒、家庭学習の習慣が身についている生徒の割合は少ない。そのため、取り組みの成果が十分に学力向上につながっていないという大きな課題が残っている。
(2) 豊かな人間性の育成	(校内評価委員会) B	生徒が主体となり様々な工夫をしながら生徒会活動を行うことができた。特に学校行事や生徒会企画では、運営をすべて生徒が行った。しかし、掃除や時間厳守などの日常生活では、生徒会活動によって自ら点検・改善するなどの自治的能力が十分に育っているとは言えない。

(3) 健やかな体の育成	(校内評価委員会) B	体育科を中心に授業を通じて基礎体力の育成を図り、ある程度の成果をあげることができたが、目標達成にはいたらなかった。ノーメディアチャレンジ等の取組や学校医の講演が、生徒の生活リズムづくりのきっかけとなり、ある程度の成果を得ることができた。
(4) 教育上の諸課題の解決	(校内評価委員会) B	不登校対策委員会、特別支援教育推進委員会の実施により組織的な対応ができた。郷土芸能を始め、様々な活動を通して地域と関わることができた。不登校対策としては、定例の学年会や対策委員会等で情報交換や対応の検討を密に行い、不登校生徒の数が減少したが、まだ十分に成果が出たとは言えない状況である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由 (校内評価委員会意見)
(校内評価委員会) B	生徒や地域の実態をふまえて教育目標、計画を設定して実践を行ってきた。学習面、生徒会活動、人権教育、健康面、特別支援教育、不登校対策、地域との連携等、様々な面で多くの成果があった。特に、生徒会活動においては生徒の主体的な活動を促し、充実した学校行事を運営することができた。しかし、進路意識の低下、ゲーム・スマホ依存による家庭学習時間の減少、せまい人間関係の構築しかできない生徒の増加による協同学習への弊害、不登校生徒の増加等、まだまだ多くの課題が残っている。毎年、これらの課題解決へ向けても様々な取組を行っているが、十分な成果が出ているとは言えない。まだまだ達成度が十分でない項目もあるため、総合評価はBとする。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが、成果が十分でない
D：取組が不十分である

5. 学校運営協議会委員評価

評価日 令和7年2月19日	
評価・提言	学校の所見・改善策等
・学年があがるごとに学習に向かう姿勢が良くなっている。しかし、実技教科の実習など、教師1人で指導するのが大変だと思われる場面も見られる。そんな場合は、生徒支援の先生に入ってもらったり、地域ボランティアを活用したりしてもらいたい。 ・どの授業にも学習課題がホワイトボードに書かれている、男女関係なく仲良く教え合える、授業におけるタブレットの使用が浸透している点が素晴らしい。 ・学校側が課題としてあげている家庭学習、不登校については、どちらとも学校は精一杯にやっていると感じる。今後は、家庭の協力をいかに仰ぐかということが大切だと思う。 ・家庭学習はなかなか習慣化していない家庭もあると思うので、アンケートの数値が極端にあがることは難しいかもしれない。家庭学習をすると得であるということを根気強く伝えていくしかないのではないか。	・協同学習の理念を大切にしながら行ってきた授業実践、研究授業ごとに積みあげてきた共通実践、一人一台タブレット端末の活用等、魅力ある授業づくりに向けた本校の取組の成果を評価していただいた。しかし、主体的に授業に参加している生徒、家庭学習の習慣が身についている生徒の割合は少ない。そのため、取り組みの成果が十分に学力向上につながっていないという大きな課題が残っている。来年度は、家庭学習時間の増加に向けた学年会、教科会を充実させ、具体的な方策を考えていきたい。 ・不登校生徒については、現在の取組を継続させて学校及び教室復帰を最終目標に取り組んでいくが、それだけではなく個々の生徒に応じた対応を保護者と共に柔軟に考えていくようにしたい。

・就寝時刻のような家庭教育にも関わる項目については、学校としての取組に関する評価指標と家庭での個人の達成度に関する評価指標の2つがあった方がよいと思う。 ・PTA会長に学校の重要な判断等について保護者代表としての意見を伺っているそうだが、それ以外にも、学校が言いづらいことをPTA総会の時に情報発信してもらおうなど、もっとPTAを活用すればよい。	・来年度は学校評価自己評価表の作成にあたって、学校として行う取組に関する評価指標、生徒の達成度に関する評価指標、教職員アンケートの結果に関する評価指標の3種類について作成していきたい。 ・学校評価自己評価表の中にPTAとの連携に関する視点を加え、これまで以上にPTAとの連携を密に行い、学校運営の円滑化を図っていきたい。
以上の提言もとに、来年度以降もさらなる改善をはかっていってもらいたい。どの項目も充分とは言えないがある程度は達成されており、評価項目及び総合評価ともにB評価とする。	

6. 今後学校が取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1. 長期欠席の未然防止に努め、不登校生徒の減少を図る。	・隔週の不登校対策委員会と不登校対策のための学年会を継続し、生徒の状況について共通理解を図るとともに、対応を組織的に行っていく。 ・アセスメントシートの作成を継続し、今まで以上に時間をかけて検討していく必要がある。 ・生徒個々に応じた対応を保護者と共に柔軟に考え、保護者に対しては、進路についても早く見通しをもってもらえるよう懇談を行っていく。 ・すべての生徒が学校とつながっている状況を継続させ、登校日数の少ない生徒については、できるだけ外部機関とつながるよう提案していく。 ・不登校対策についての職員研修を実施する。 ・新規不登校生徒が出ないよう、課題2、3の充実を図る。
2. 自らの進路を切り拓く確かな学力を育成する。	・来年度に向けてCRTの結果を各教科で分析し、苦手分野のフォローアップを授業や朝読書の時間を使って実施する（3月）。 ・さらに魅力ある授業を行うために、生徒の主体的で深い学びを実現するための学習課題をどう設定するのか、授業展開をどう工夫していくのか今後も研究会を計画していく。 ・今まで以上に進路学習を充実させ、できるだけ早い時期から中学校卒業後を意識して学習に取り組めるよう仕組んでいく。 ・家庭学習時間の増加に向けた学年会、教科会を実施し、具体的な方策を考えていく。 ・学習規律に関しては、具体的な重点項目を設定（共通実践）し、全員でその徹底を図る。 ・課題1、3の充実を図る。
3. 授業および教育活動全体で、よりよい人間関係づくりに努める。	・できるだけ多くの教師が生徒のそばにるようにし、普段から言葉遣いや挨拶、礼儀、マナー等を意識させるはたらきかけを行っていく。 ・日常の生徒会活動において、各種学校行事の時のように生徒どうしに関わり合いながら自分たちの生活の改善が図れるような活動を今以上に仕組んでいく。 ・協同の理念を取り入れた授業づくりをさらに継続し、授業を通した高め合える仲間づくりの構築を図っていく。 ・教科としての道徳、授業における人権教育を充実させるため、授業づくりは学年の担任で協力して行う。3年生の人権劇、人権作文や人権標語、人権教育参観日等、年間を通した取り組みは少しずつ改善しながら今後も継続していく。